

三里塚教会を守ったクリスチャン

戸村一作の生涯

● ……成田市関連項目

- 1909年 千葉県印旛郡遠山村三里塚56番に生まれる(5/29、現在の三里塚44)
- 1927年 18歳 中学3年の時、英語教師中山義秀より「資本論」を教わり、進歩的思想に目覚める
- 1929年 20歳 成田中学卒業(現成田高校)
- 1930年 21歳 家業の農機具販売を手伝いながら、作家活動を始める
美術研究会「郷陽会」を結成、この年第一回展開催
文芸同人誌「まきば」を発刊
- 1934年 25歳 牧師長崎勝二郎により受洗
この年12月23日に澄江と結婚
- 1938年 29歳 このころから、活動拠点を北海道に移し原野をテーマにした作品を多く制作
澄江夫人をモチーフにした絵画、道展に入選
- 1944年 35歳 三里塚に帰郷
- 1947年 38歳 父・武芳死去
- 1954年 45歳 **自宅の敷地を提供して三里塚教会を建設(設計は吉村順三氏)**
- 1956年 47歳 鉄の彫刻作品「作品」に二科展に出品。以降、毎年のように出品
- 1960年 51歳 日米安保闘争に関連して、国会包囲デモに参加
- 1963年 54歳 新国際空港(千葉県富里村)設置計画に反対表明する
それをテーマにした作品「罪責」A・Bで二科展特選優賞
- 1965年 56歳 「富里空港キリスト者反対同盟」結成
- 1966年 57歳
- 新国際空港計画が突如富里村から三里塚に変更、閣議決定される(7/4)
 - 新東京国際空港公団設立(NAA)
 - 急速「三里塚芝山連合空港反対同盟」結成(7/20)
 - 一坪運動が開始
- 農民からの要請で委員長となる
- 1968年 59歳 2・26第一次成田闘争中に一ヶ月の負傷
- 1969年 60歳
- 空港建設用道路工事開始、実質的に空港建設始まる
- 1971年 62歳 反対闘争の激化に伴い、それをテーマにした作品「三里塚に生きる」を二科展に出品
- 空港公団による第一次代執行開始(2/22)
 - 反対派第一次鉄塔建設(5/12)
 - 空港公団による第二次代執行開始(9/16)
- 1972年 63歳
- 反対派第二次鉄塔建設(3/1)
 - 4000メートル滑走路完成
- 1973年 64歳 成田新国際空港第一期工事ほぼ完成、続いてパイプライン等インフラ工事開始
- 1974年 65歳 参議院選挙に立候補、落選
『わが十字架・三里塚』出版(教文館)
- 1976年 67歳 「戦いに生きる」、「小説三里塚」出版(亜紀書房)
- 1977年 68歳 作品「東山薰の死」二科展に出品
- 機動隊による反対派鉄塔撤去(4/7)
 - YS11機によるテスト飛行(5/7)
 - 反対闘争中に機動隊の催涙弾で東山薰死亡(5/8)
- 1978年 69歳 本教会堂の解体を阻止するために宣言書掲げ
宣言
本教会堂は、全世界の多くのクリスチャンの献財によって昭和29年に献堂されたキリストの体なる教会である。何人の手によっても破壊できるものではないことをここに宣言する。因に、本公堂の設計者は芸大教授吉村順三氏になるものである。
信徒代表 松井道男、戸村義弘、戸村一作一同
- 1979年 70歳
- 反対派によって管制塔占拠、機器類が破壊される(3/26)
 - この事件で開港延期決定
 - 成田国際空港開港(5/20)
- 戸村一作氏永眠(享年70歳)
三里塚第一公園にて追悼大集会開催(11/11)
澄江・勝二連名による「三里塚闘争への遺稿」出版
戸村一作氏遺作展開催(銀座地球堂ギャラリー)
遺作展賛同人として、大島渚・谷川俊太郎・野坂昭如・羽仁五郎・加藤登紀子等が連名



三里塚教会での戸村一作



旧教会保育所に通う子ども達



戸村一作氏追悼の記事
(1979年12月8日キリスト新聞)



反対運動の中洗礼を受ける信者



三里塚教会の牧師ピーター・マッキニスとエレン夫人



旧三里塚教会
完成した新教会の隣に保育所として移築



讃美歌を合唱する人々。
右端に戸村氏が写っている



教会の修復の信者たちの手で行われた



空港反対運動は農民としての「生活基盤」の確保でもあった。(1977年5月6日)



成田空港反対闘争の委員長として立ちあがった戸村一作氏(1975)



1978年頃の教会



1977年2月6日の戸村氏

戸村氏は芸術家として、多くの作品を残す。



三里塚教会で行われた戸村一作の葬儀(1979年11月)